

総ぐるみ「新聞」

NPO総ぐるみ福祉の会の

提供するサービス

「遠い親戚より近くの他人」という諺がありますが、「NPO総ぐるみ福祉の会」が目指す理想がまさにそれです。この日限山地域に住む気心の知れた「近くの他人」同士が集まって、お互いに助け合いながら、NPOの精神に基づいた有料ボランティア・サービスご提供いたします。

介護保険による「居宅サービス」を提供

食事や排泄の介助、衣類の着脱・清拭・入浴介助・身体整容、体位の転換・移乗・外出の介助、起床や就寝の介助、服薬の介助などの身体介護
掃除、洗濯、衣類の整理、調理、生活必需品の買い物、薬の受取りなどの生活援助
通院、入退院の送迎などの通院乗降介助(移送の場合、車にかかる諸費用として、1回五百円を申し受けます)

介護保険の対象とならない

有料サービスのご提供
介護保険利用者以外の家族のための

家事

車を使った外出のお手伝い
日常の暮らしに差し支えない家事
(庭の草取りや水やり、ベットの世話、洗車など)
一人でできない家事、日常やらない家事
(大掃除、家具の移動、室内や家具などの簡単な修理、窓拭きなど)

その他(来客の接待と後片付け、留守宅の郵便受取代行、食事や話し相手など)

当会の集会施設「日限山荘」のご利用

家族のように付き合ったまり場
昼(ご飯(三百円)を楽しみ、食後は囲碁、オセロ、麻雀、おしゃべりなどを楽しみます。
三月の開催日(予約なしでおいでください)
火曜日：一、八、十五、二十二、二十九日
金曜日：四、十一、十八、二十五日

NPO総ぐるみ福祉の会 事務所は日限山4-44-23の宮崎宅です。入会や活動等については、宮崎浩子(844-7477)、増澤喜一郎(844-9084)、大橋綾子(823-2363)、菅沼永子(844-9193)、米川満寿子(841-9433)、菊地幸子(841-4862)に。日限山荘でも受け付けています。

賛田 勇二

NPOについて(その1)

NPOとは、Non Profit Organization の略の頭文字を取ったもので、訳せば「非営利組織」となります。
最近NPOという言葉も一般化してきましたが、使う人によって指す中身が異なる場合があります。
一つは、文字通りの「非営利組織」を指している場合です。この場合は、営利を目的としない学校法人、病院法人、宗教団体、政治団体、自治会、ボーイスカウトなど各種のボランティア組織をみな含んでいます。
もう一つは、平成11年に施行された「特定非営利活動推進法」(通称NPO法という)によって、法人として承認された「特定非営利活動法人(NPO法人)」を指す場合です。NPO法が施行されてからは、こちらの意味で使われることが多くなっているようです。しかし、NPO法人を含んだボランティア活動グループをNPO、法人格を持つグループをNPO法人として区別している人もいます。
総ぐるみ福祉の会も、NPO法で承認を受けたNPO法人です。正式名称は、「特定非営利活動法人総ぐるみ福祉の会」といいます。略して、「NPO法人総ぐるみ福祉の会」、「NPO総ぐるみ福祉の会」、「総ぐるみ福祉の会」などと使っています。

【お知らせ】郵便局の現金袋に広告が載りました

いつもご利用ありがとうございます。

お支払月日	月	日	様
お支払金額			円

ゆうちょ
郵便貯金

横浜日限山郵便局

あなたの町の郵便局

介護は「こころのかよう」地元でこそ

- 介護保険に関するご相談 ●訪問介護
- 家事援助 ●送迎 ●地域交流活動

〒233-0015 横浜市港南区日限山4-44-23
TEL 045-844-7477 (<http://sougurumi.jp/>)
特定非営利活動法人 総ぐるみ福祉の会

“いわゆる 高齢者の仲間入りをして”

・医療講演会のことなど・

贄田 勇二

一族の男たちが、みな若死に早死にで、子供の頃から身近に男の年寄りを見たことがなかった。それもあつてか、遅くも五十代のうちに死ぬものと決めてかかつて生きてきた。事実四十代後半と六十代前半の二回病気をした。私の祖父や父が亡くなった時代の医療水準だったら、二度死んだところ。

気がついたら、労働統計のいうところの、いわゆる高齢者の仲間入りをしていた。ひよっとするともう少し生きるかもしれない。寝たきりになっても困るなど、足を鍛えようとランナーに乗ったり、自転車のペダルこぎをしたり。

隣の人に負けまいとつい力を入れすぎて、途端に膝が痛くなる。病院へ行ったら、変形性膝関節炎との診断。原因を伺ったら、遠慮がちに小さな声で、年相応の老化現象」とのこと。故郷の姉に話したら、「その病名は、変形性の前に“老人性”がついているんだよ」と手厳しい指摘。

病氣のことについて少しは知識を持つとかと、ここ二、三年医療講演会にかなりの回数行ってみたい。どれも自分の身に直結していそうで、歴史や文

学の話とは違った興味深さがある。

素人の聴きかじりで、内容は保証の限りではないが、印象に残った事を一つ二つ記してみる。(知らなかったのは私だけかも知れないが……)

転倒と寝たきりについて

「人が転ぶのは二足歩行の宿命。四足歩行の犬は転ばない」なるほどと感心する。

ある調査で、七十才以上の人の一年間の転倒率は男性が約一六%、女性が約二〇%という。しかも女性の場合は、転倒者の三人に一人以上が骨折しているという。別の調査では、寝たきり原因の第二位を骨折が占めているという。

高齢者が転倒すると、大抵子供に叱られる。『だからここは危ないと言ったでしょう』と。こう言われると、高齢者は次から転んだことを家族に隠すようになる。隠すと骨折の発見が遅れて、寝たきりの原因になったりする。『だから言ったでしょう』とつい言いたくなるが、これは禁句だという。

痴呆(認知症)のこと

六十五才以上の十三人に一人が痴呆だという。すごい数字だとびっくりする。

脳血管性痴呆のように、新たな病変を予防すれば進行が止まる可能性のあるものもあり、早期発見が大事で、脳も定期検診をとという話。

痴呆性高齢者を介護する家族が、最初に気づい

た日常生活の変化は、第一位が「同じ事を言ったり聞いたりする」で、第二位が「物の名前が出てこなくなった」だという。

どちらも自分のことではないかと思えてくる。いずれにしても、これも自分がいつなってもおかしくないなと思っている。

減塩のこと

ナトリウムが増えると血圧が高くなると聞いても、血圧が高いといわれたことがないから、まあいいかとなっていた。

最近「塩分が増えると末端の血管に水分がたまって足がむくんだりする。これを解消しよう」と心臓と血管に負担がかかる」ときいた。塩が水分を含むのかと勝手な解釈で納得。

納豆も芥子の味で我慢して、醤油の量を減らすうと思いながら、梅干、塩辛、筋子など相変わらずかなり食べている。

このへんにしておくが、三年ほど前に十代からの長年の親友二人に相次いで死なれた。お互いに時間もできてきて、ゆっくり会えると楽しみにしていた矢先。「君の方が俺の葬式に出るはずだったのだぞ」などと墓石に向かって文句を言ったりする始末。

町内の八十才、九十才を超えてお元気で活動していられた方たちの秘訣を、ぜひ聴かせていただきたいなと思っているこの頃である。